



RI会長 ゲイリー・C.K.ホアン
第2640地区ガバナー 辻 秀和



2014-2015年
海南東ロータリークラブ

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

第1812回例会

平成26年12月15日(月)

12:30～ 海南商工会議所 4F

ゲスト卓話 海南市長 神出 政巳 様

1. 開会点鐘

2. ロータリーソング 「それでこそロータリー」

3. ゲスト紹介 海南市長 神出 政巳 様

4. 出席報告

会員総数 48名 出席者数 29名
出席率 60.42% 前回修正出席率 80.83%

5. 会長スピーチ

会長 山東 剛一 君

みなさん、こんにちは！神出市長さん、ようこそお越し下さいました。神出市長さんにはのちほど卓話をして頂きますのでみなさんご清聴下さい。

例会も本年はあと残すところ1回となりました。7月にスタートして早や半年たちました。振り返ってみますと、スタートから1ヶ月少々で柳生幹事が帰らぬ人となり、私も正直あわてふためきました。後任をどうしよう。どなたにやっていただこうかと。中西副会長にお願いしたところロータリーの友情で快く引き受けていただき最初の難局をのりきることができました。改めて中西幹事に感謝申し上げます。

次に地区のゴタゴタで連日いただいたフックスは200枚ぐらいはあるのでしょうか。そのゴタゴタも少し落ち着いてきたのでしょうか。落ち着いてほしいものです。

3番目に会長ノミニの使命の件です。これもロータリーの友情のおかげで上野山さんに快く引き受けて頂きました。改めて上野山さんに感謝申し上げます。この様にして、この半年を簡潔にまとめてみました。おわります。ありがとうございます。

12月は家族月間です

6. 幹事報告

幹事 中西 秀文 君

○例会臨時変更のお知らせ

和歌山西RC 12月24日(水)→12月22日(月)

18:00～ 割烹「華新」

那智勝浦RC 1月8日(木)→1月8日(木)

11:30～ 熊野那智大社

(初詣例会)

○休会のお知らせ

那智勝浦RC 12月25日(木)

和歌山西RC 12月31日(水)

7. ゲスト卓話

海南市長 神出 政巳 様

皆様、今日は！ 本日は、お招きを頂き、貴重なお時間を頂きまして、ありがとうございます。皆様方には平素、奉仕活動をはじめ、市政運営に対しまして、格段のご支援・ご協力を賜り、重ねて御礼申し上げます。また、年明け早々の40周年記念式典おめでとうございます。

それでは早速であります。まちづくり・住まいづくりにおける、本市を取り巻く環境、今後のまちづくりについて、そして、それに伴う課題等に、ついてお話をさせて頂きます。海南市の簡単な紹介をさせて頂きます。本市は、平成17年4月1日に1市1町が合併し、新しい海南市として出発しました。丁度10年が経過致します。北部は和歌山市、南部は有田市に隣接した面積101.19㎢、人口約54,000人と東西に長細く、海と山に囲まれた風光明媚なまちであります。

古くは熊野詣での要衝の地として栄え、中央文化と接触があったことから、下津町内に紀州徳川家の菩提寺である長保寺をはじめ、4つの国宝建造物があります。産業については、海岸部は天然の良港を活かし、昭和40年代以降、新日鉄住金(株)や関西電力(株)などの重厚長大型



四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：山東 剛一

幹事：中西 秀文

SAA：山田 裕之

<http://www.kainaneast-rc.jp>

E-mail: info@kainaneast-rc.jp

産業を中心として栄えて参りました。

又、室町時代が起源と言われている黒江地区の「紀州漆器」別名「黒江塗」は、会津・輪島・越前塗と共に全国四大産地の一つにも数えられ、重要な地場産業であります。一方、内陸部では、全国シェア8割を占めるブラシやお風呂マットなどの日用家庭用品産業や農業を中心に栄えて参りました。農業については、温暖な気候を生かしビワ、桃、キウイなど果樹栽培が盛んであります。特に、これからの季節、コタツに入っ

て食べて頂きたいのですが、美味しい温州ミカン発祥の地として知られています。年明けからは、山小屋で貯蔵し熟成させたみかんを「下津みかん」のブランド名で売り出しますので、是非共ご賞味下さい。

和歌山県と言えば、大阪市内から遠いというイメージを持たれていると思いますが、本市には、近畿自動車道のインターチェンジが3カ所もあり、車で関西国際空港までは約30分、天王寺辺りでも約60分、JRを利用すれば大阪駅まで約1時間10分で行けるなど、通勤・通学など非常に便利なまちであり、自然豊かな住みやすいまちであります。

本市を取り巻く環境についてであります。先般、日本創生会議より、人口減少・消滅可能都市のレポートもありましたが、御多分に漏れず、海南市は、平成17年の合併当初、約6万人のまちとなりましたが、右から2列目の人口合計の欄のように年々減少しています。また、人口が減少している年代が若年層となっていることから、右端の列は高齢化率を記載していますが、高齢化率が高いといわれる和歌山県の中でも年々高齢化率が高くなり、県内の平均値をも超えている状況であります。

この写真は現在の商店街と昭和58年当時の様子であります。写真の奥に海南駅があります。見て頂ければ、「何とかしなければならぬ。」という状況はお判りになって頂けると思いますので、これ以上の説明は省きますが…。

想定される南海トラフ巨大地震により、8mの津波が本市沿岸部に襲来し、被害想定では、建物の全壊半壊を合わせて約17,000棟、死者約4,000人とされており、壊滅的な打撃を受けることとなります。これは、浸水予想図で、赤色部分が5m以上、ピンクが2～5m、オレンジが1～2mの浸水エリアとなっています。この色が着色された区域イコール、本市の核となるべきところでもあります。簡単に位置関係を説明しますと、西に和歌山マリーナシティ、東、右によって関西電力㈱や新日鉄住金㈱、中央に南北に国道42号が通っており、さらに一番東、右にJR海南駅がございます。そして、国道とJRに挟まれた区域に、防災拠点となる市役所、消防署、警察署が位置し、軒並みピンク色で被災するエリアにあるような状況であります。先ほど見て頂いた商店街の写真は駅の西側・左になります。また、後ほど説明の中に出てくる新病院、ショッピングセンターもこの中に位置します。



次に、今後のまちづくりへの取組みについてであります。津波により被災するとわかっているところを市の中核として整備する、というあい反する中でまちづくりになり、この課題を解決するには、この津波浸水エリア外に新たなまちを移すということになります。しかし、高台移転ということになれば、多額の費用が必要になること、日頃の利便性が低下し、また、移転する場所もない、被災していない中でどこまで市民の方の理解が得られるかと言ったことから、現状は、津波から人命を守るための避難場所や津波緊急避難ビルの整備、自主防災組織の充実等の取組みは行うものの、高台移転等のまちづくりは考えず、海南駅、主要国道、港湾が集中するこの地域でまちづくりを考えています。【参考までに：浸水エリアは、約4km²であり全体面積の約4%に約14,000人(約26%)の市民の方々が居住しています。】

そういいながらも期待していたのが、平成21年度から、国の直轄事業として行なって頂いております浮上式防波堤(約230m)工事であります。この事業は、平時は海底に格納されている鋼管が、いざという時に送り込んだ空気の浮力で海面上約7.5mまで浮上し津波を食い止めるというもので、これが完成しますと、津波から多くの人命や財産を守ることが可能となり、何よりも市民の方々が安心して日々の生活を送れることができると考えていました。しかしながら、東日本大震災以降、内閣府の想定見直しにより、想定震度が6弱から7に大きくなったこと、また津波高も6mから8mになったことから、当初設計時の浮上式防波堤の構造上、浮上しない恐れが出てきたという事で、構造の再設計やそれに伴う事業費も含め、今後どうするか検討されており、近々方向性が示されると聞いています。

本市のまちづくりについてであります。平成19年3月に、「第1次海南市総合計画」を策定し、市の将来像として掲げた「元気 ふれあい 安心のまち 海南」を目指し、新しいまちづくりを進めております。こちらは、市役所周辺の中心市街地の活性化に取り組んでいる区域になります。【中央に市役所、右側に海南駅があります。】平成21年度からまちづくり交付金事業を活用しながら、まちづくりを進めて参りました。その主な取り組みとして、病院用地取得事業や病院駐車場整備事業に『まちづくり交付金』を活用させて頂き、平成25年3月1日に地域医療の中核を担っていく海南医療センターをこちらに開院させました。また、その他の事業については、都市計画道路や既存市道の整備を行いました。そして、昭南工業跡地には、大型スーパーや家電量販店などを誘致しました。大型スーパーには昨年150万人の方が来店し、売上30億円と聞いています。

左上の写真は、海南駅の写真であります。地方の小都市ではありますが、鉄道高架となっています。昭和58年4月に事業認可を頂き、県が事業主体となり、15年・約140億円(海南市の負担は20億円)を掛け、2.1kmを高架にし、15の踏切を無くし、駅も新幹線の駅の様に生まれ変わりました。左下は、『まちづく



ニコニコ・BOX

山東 剛一 君	神出市長さん、本日はお忙しい中、ご苦勞様でございます。
中西 秀文 君	神出市長、今日、卓話宜しく願ひします。
田岡 郁敏 君	神出市長様、お忙しい所ありがとうございます。
山田 裕之 君	神出市長、本日卓話宜しく願ひします。
岸 友子 君	神出市長様、本日は卓話ありがとうございます。
宇恵 弘純 君	市長、40 周年記念式典に招待しています。宜しく願ひします。
小椋 孝一 君	田中理恵（体操選手）さん一緒にお話をしました。
理事一同	理事会の残金です。



ヒマラヤでの

家庭排気対策プロジェクト

ヒマラヤ山脈に登ることを何年ものあいだ夢見てきたジョージ・バッシュさん（タオス・ミ



ラグロ・ロータリークラブ、米国ニューメキシコ州）は、2001 年、64 歳で初めてヒマラヤ登山に挑戦し、想像をはるかに超える経験をしました。しかし、厳しい現実も目の当たりにしました。多くの家屋で家庭排気による煙害が起きており、家の中に穴を掘って火を起こす家庭や、家畜の糞を燃料代わりにする家庭がありました。煙に包まれているようだったと話すバッシュさん。「咳や涙がでて、逃げ出したくなった」と振り返ります。煙害は、健康被害をもたらします。世界保健機関（WHO）の調査によると、2012 年、石炭や木材、バイオマス燃料を燃やして調理をし、その家庭排気による大気汚染で 430 万人の命が奪われました。犠牲者のうち、5 歳未満の子どもが半数以上を占め、専門家は、台所で火を焚くことは、1 時間に 400 本のタバコを燃やすようなものだと言警告します。

決意とともにヒマラヤを再訪

この状況を何とかするために、バッシュさんは 2009 年にヒマラヤを再訪しました。燃焼効率の良い調理用ストーブを設置することで問題を解決できることを知ったバッシュさんは、燃焼効率の良い調理用ストーブの考案者と連絡を取り、ネパ

ールで使用する可能性を検討。そして 2010 年、48 台のストーブを家庭に提供しました。翌年に現地を訪れたバッシュさんは、これらのストーブが好ましい影響を生んでいることを確認し、住民からは、より少ない燃料で手早く調理できるとの声が寄せられています。その後もプロジェクトは続き、今日までに 3,000 台以上が提供されています。都市部から離れた辺地にはヘリコプターで運び、輸送に数日を要することもあります。ストーブ 1 台の購入、輸送、設置にかかる費用は、わずか約 100 ドルです。ストーブを受け取った家族は、そのお返しとして、地域社会での奉仕活動に参加したり、学校や診療所の備品を購入したりします。地域によっては、利用者にストーブ代のごく一部を支払ってもらい、それを小口融資に充てる工夫も行われています。このプロジェクトは、さらに多くの支援を必要としています。これまでに、バッシュさんの所属クラブや、ロータリアン個人からの寄付が寄せられているほか、去る 2 月には、カトマンズ（ネパール）のロータリークラブが加わり、90 台が新たに設置されました。これらの支援を受け、さらに多くの変化をもたらすために意欲を燃やすバッシュさん。「山間部にはこのストーブを必要とする人びとが大勢おり、みんなに提供できれば素晴らしい変化が生まれるでしょう」

人類最大の敵、エイズとの闘い

昨今のエボラ出血熱の感染拡大により、何千人もの命が奪われ、世界が大きく揺れました。しかし、社会に与える影響という点で、エイズを凌ぐ疾病はありません。現に、医療が進歩した今日でも、アフリカを中心に毎年 100 万人の犠牲者を出しています。「エボラは最悪レベルの流行となったが、HIV／エイズの状況はさらに深刻」と述べるのは、イリノイ大学シカゴ校のグローバル保健センター所長を務め、12 月 1 日の Rotary's World AIDS Day で講演を行ったティモシー・エリクソンさんです。「エボラは未解明のことが多く、メディアも敏感に反応しますが、さらに多くの命を奪っているエイズへの関心を失ってははいけません」と生物医学の進展により疾病撲滅が可能な今こそ、支援をお願いしたいと訴えます。今日、HIV 感染者は、医薬の助けによってエイズ発症を抑え、治療を受ければ、他者を感染させる可能性を 95% も低減できます。



疾病予防と治療」を重点分野の一つに定めるロータリーでは、HIV 感染者への支援や学校での啓蒙活動など、HIV／エイズへの取り組みにも力を入れています。